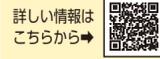


世界遺産 奈良

法隆寺地域の仏教建造物

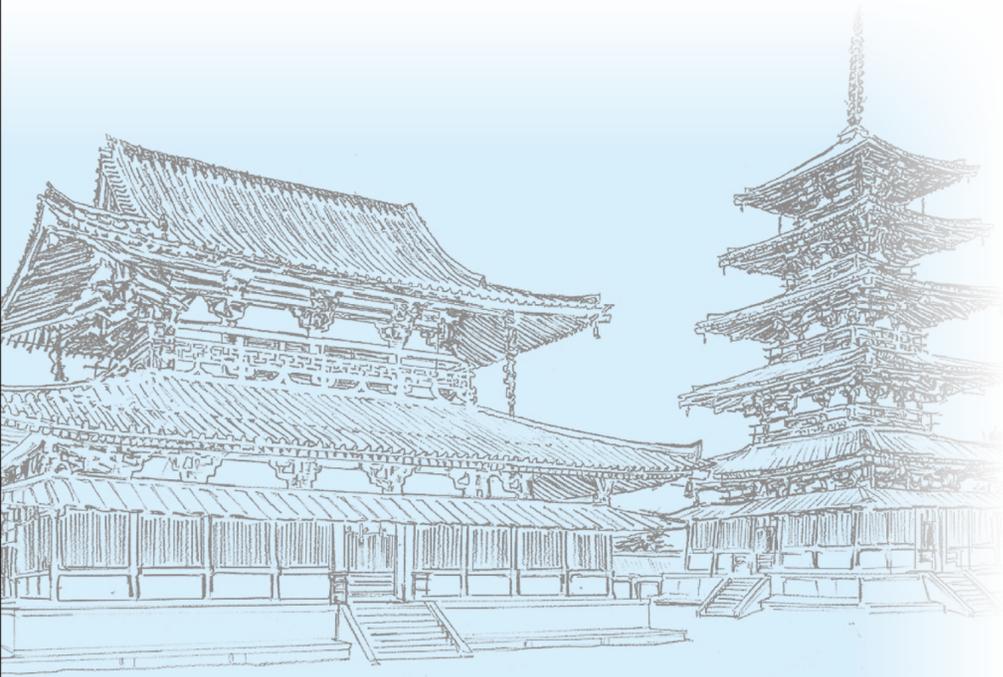


「法隆寺地域の仏教建造物」には、法隆寺と法起寺の二つの寺院における木造建造物が含まれます。平成5年(1993年)に、姫路城とともに日本で最初の世界文化遺産として登録されました。

法隆寺は、推古15年(607年)に聖徳太子によって建立されたといわれています。伽藍は西院と東院に分かれ、西院のうち金堂・五重塔・中門・回廊などの建物は7世紀後半から8世紀初頭にかけて建造されたもので、現存する最古の木造建造物です。

法起寺は7世紀に創建されましたが、創建当時のものは三重の塔のみ残っています。

これらの建造物は、中国から朝鮮半島を經由して仏教が日本に伝えられた初期の建造物であり、仏教建造物の傑作であると評価されています。また、その後に建てられた建造物群とあわせて、日本の仏教建造物の変遷を知ることができ、日本独特の建築様式が発展していったことを示しています。



法隆寺

法隆寺は、現存する世界最古の木造建築として今なお飛鳥の時代を伝えています。1400年もの伝統を誇り、仏教文化の研究の宝庫として人々の注目を集めています。また、1993年に日本で最初に世界文化遺産に登録され、世界的に見てもその地位は高まっています。境内は国の指定史跡、南大門・五重塔・金堂をはじめとする19棟の建造物が国宝に指定されています。非日常の神秘的な雰囲気漂っているスポットで、当時の栄華がうかがえます。

五重塔の見どころ

五層目の屋根の下には後世に付け加えられた柱があり、そこに力士の姿が見えます。

飛鳥建築の特徴のひとつ「卍崩し」の勾欄です。

屋根の軒桁を支えている獅子や邪鬼。

「基壇」という砂と土を突き固めた部分です。2段あるのは法隆寺だけです。



地下の中心に仏舎利(お釈迦様の遺骨)が安置されています。

鎌が4本刺さっています。五行思想より、雷を防ぐため、という説があります。

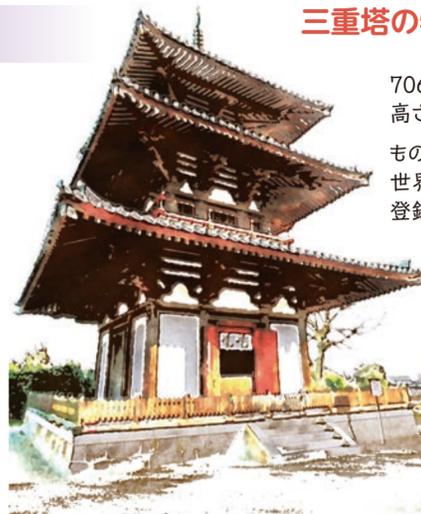
葵の御紋が入った「露盤」という台。徳川家の寄進で修理された証です。

塑像(粘土)でお釈迦様の生涯を表現。焼いていない土の像が1300年も残っています。

このひさし部分(裳階)も、創建当時はありませんでした。

法起寺

法起寺は、聖徳太子の岡本宮を聖徳太子の遺言により、その子山背大兄皇子が寺に変えたもので、地名から岡本寺、池のそばにあったので池尻寺ともいわれます。創建当時の建物としては、三重塔のみであり、現存する三重塔の中ではわが国最古のものです。



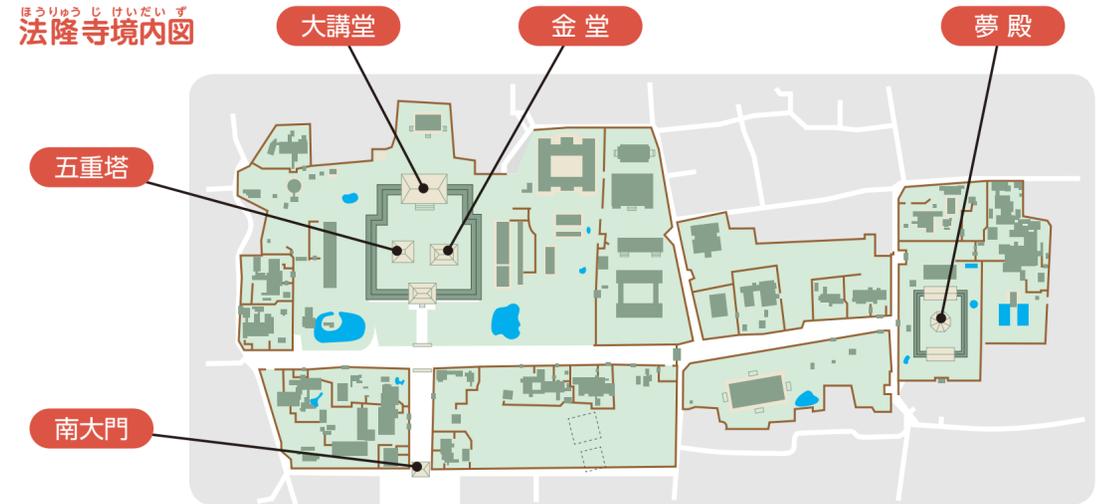
三重塔の特徴

706年に完成したとされ、高さ24mの塔は最古のもので、法隆寺伽藍と共に世界文化遺産に登録されています。

三重塔としては、最古最大であり飛鳥時代の建築様式を伝えています。



法隆寺境内図



法起寺境内図

